

諸子沢地内
地すべり防災対策委員会
(第2回委員会)

委員会資料

場所：静岡市清水庁舎
日時：令和6年6月14日

諸子沢地内 地すべり防災対策委員会（第2回委員会）

委員会資料目次

- 1.前回と今回の空撮変化
（今回の踏査結果、発災時の変化）
- 2.前回から進んだ調査結果（地質踏査結果）
- 3.移動量調査（GNSS、地表伸縮計）
- 4.ボーリング結果
- 5.地下水（降雨との相関）
- 6.パイプ歪計
- 7.空中電磁探査
- 8.推定すべり面とブロック区分（ブロック毎の緊急度）
- 9.監視体制（ソフト対策）の提案
- 10.応急対策（ボーリング暗渠工、作業道計画、倒木処理）
- 11.今後の調査対策計画

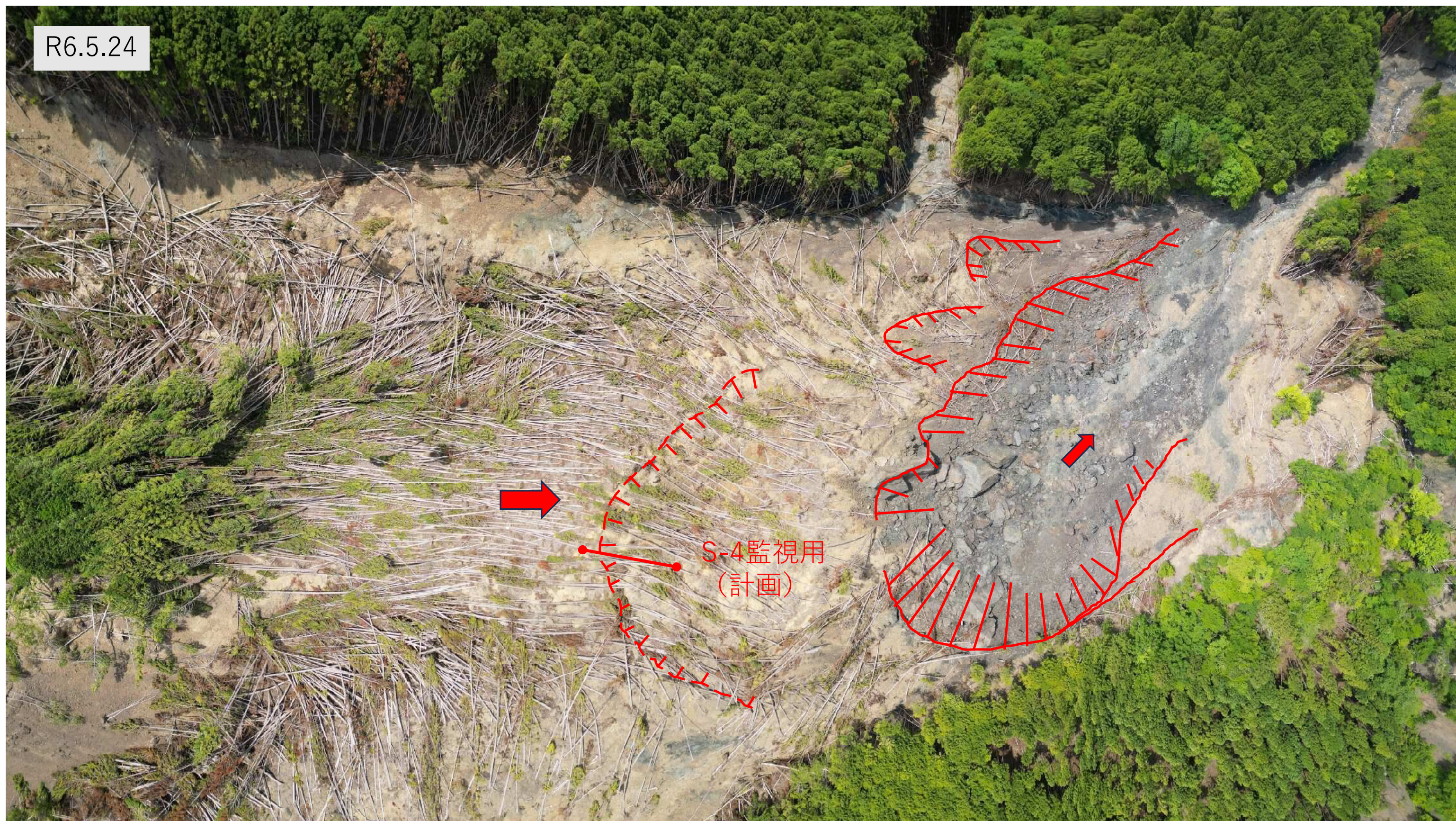
前回と今回の空撮変化

2023.8.26 空撮結果

2024.6.24 空撮結果



R6.5.24



R5.8.26



R6.5.24



R5.8.26



R6.5.24



・発生域の倒木は、葉が枯れ見た目の変化がある。不動地とされていた立木がかなり疎になっているようである。土砂移動が生じている可能性があるが、写真では土砂移動の範囲について定量的な変化は不明である。→レーザー計測、差分解析より把握したい。

R5.8.26



R6.5.24



- ・大久保沢では、R5.8.24の発生直後の泥流化した堆積状況を確認した。滞筋が侵食されたことにより、水位面が堆積上面より下がり、堆積上面は乾いた状況である。

R5.8.26



R6.5.24



R5.8.26



R6.5.24



R5.8.26

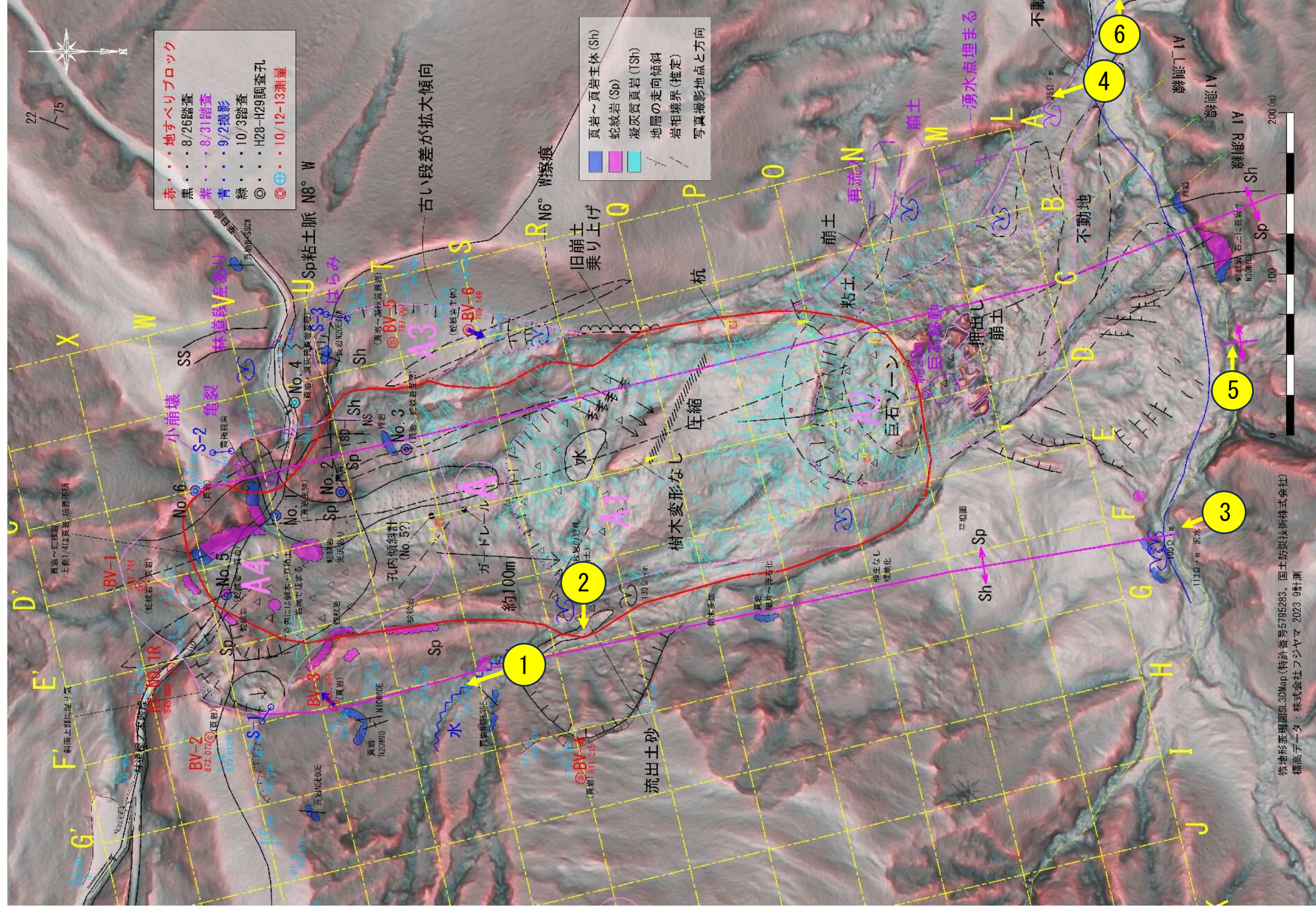


R6.5.24



- ・ 大久保沢と諸子沢本川の合流部の無名沢橋（ボックスカルバート）は土砂撤去により通水確保された状態が確認された。

02.前回から進んだ調査結果 (地質踏査結果)





写真① 沢部の地層境界



写真② 右岸湧水
比抵抗値 $133\Omega \cdot m$



写真③ 大久保沢左岸
地層境界 湧水比抵抗値 $100\Omega \cdot m$



写真④ 地すべり土塊
風化した蛇紋岩の堆積物
湧水 比抵抗値 $25\Omega \cdot m$



写真⑤ 大久保沢狭窄部



写真⑥ 大久保沢堆積状況
滞筋が低下して土塊表面は
乾いてきている。

< 地質踏査結果 >

- ・ 右岸側 F 測線付近に頁岩、蛇紋岩の境界部の露頭が発生域上部、大久保沢左岸で確認され、地すべり範囲同方向（概ね北北西）に分布している。
（写真①、写真③）→地すべり範囲が蛇紋岩の分布範囲と合致している。
- ・ 右岸側の頁岩、蛇紋岩の接触部では複数点の湧水点が確認された。
（写真②、写真③）→【仮説】頁岩分布範囲の斜面上部より供給された地下水が蛇紋岩分布範囲に規制され、堰上がり、湧水となっている可能性がある。
- ・ 左岸側の地すべり土塊下流の湧水の比抵抗値は $25\Omega \cdot m$ である。
（写真④）→【仮説】右岸側の頁岩斜面より流入した地下水の比抵抗値 $133\Omega \cdot m$ が粘土化した風化蛇紋岩分布範囲（すべり面付近を通過した深部の地下水）を通り、比抵抗値 $25\Omega \cdot m$ に低下した可能性がある。
- ・ 地すべり下流の大久保沢左岸は一部狭窄部となっている。
（写真⑤）→【想定】亀裂が多く、緩んだ斜面末端部であり、今後の地すべり活動により閉塞する可能性がある。
- ・ 大久保沢の溪床堆積土砂の上面は滞筋が侵食され水位面が下がり、乾いた状態となっている。水位面側部の堆積土砂は含水が多い。
（写真⑥）